

氏 名：榎本 大地

派遣元：NEXCO 東日本

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：総括担当

私は、広報・広聴担当として、報道機関への情報提供、大臣会見のサポート、HP や SNS による情報発信、大臣会見のサポートなど、内閣府防災における広報業務に携わり、非常に得難い経験をさせていただきました。

今年度は9月～10月にかけての房総半島台風、東日本台風等による一連の災害により多くの被害が発生し、これに伴い記者公表や大臣会見が連日のようにありました。このような業務に携わるなかで、災害時の政府の動きを近くで感じる事が出来ました。

また、自分の所属元から1年間離れ、改めて高速道路の重要性を実感しましたし、今後も内閣府防災での経験を活かしながら、災害時には命の道となる高速道路の維持発展に貢献していきたいと思えます。

氏 名：湯澤 崇

派遣元：千葉県

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：総括担当

総括担当において、主に国会対応の調整や、各種窓口業務を行いました。国会議事堂や議員会館、政党本部に出入りすることや、大臣等政務のレクに同席させていただくことも多く、貴重な経験をすることができました。窓口ということで、各室が担当している防災業務の知識を幅広く得ることができたのはもちろんですが、仕事の仕方そのものについても学ぶことが多かったです。更に、昨年発生した台風第15号の際は内閣府調査チームとして出向元の千葉県に派遣され、出身自治体の災害対応を外部から見るという得難い経験をさせていただきました。

千葉県は、昨年の台風における対応の反省を踏まえて防災危機管理体制の見直しを図っている最中ですが、内閣府で得た経験と人間関係を活かし、より強靱な体制づくりに貢献したいと思えます。

氏 名：伊藤 翔太

派遣元：静岡県

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：総括担当

私は総括担当として、予算・施策等に係る調査依頼の局内各課への割振りや法令審査、照会対応等、幅広く政府の防災行政に関わる仕事をしました。特に、「災害対策基本法」の条文の解釈について自治体やマスコミ等から問合せがあると、私の回答が自治体の災害対応方針を決めるのに役立ったり、回答した翌日に報道されたりするので、とてもやりがいを感じました。一方で、災害時には、防災担当全体が災害対応体制に切り替わり一気に緊張感が増します。今年6月末の山形県沖地震の際には、政府調査団の一員として大臣の被災地視察をサポートする業務に従事し、8月末には、平成30年7月豪雨の被災から1年が過ぎた岡山県倉敷市への国会議員派遣に同行しました。

国の防災の最前線に関われたことや、全国の自治体・民間企業からの派遣職員とのつながりを得られたことは非常に有意義だったと感じています。

氏 名：大塚 健太郎

派遣元：愛知県 名古屋市消防局

派遣期間： H30.4.1～R2.3.31

所 属：災害緊急事態対応担当

米国海軍病院船「マーシー」の東京寄港を皮切りに、1都1道8県への被災地派遣、海上自衛隊の艦艇を活用した医療活動訓練、首都直下地震や南海トラフ地震における緊急対策活動に関する計画の改定など、本当に多岐にわたる業務を経験させていただきました。

消防職員として、これまで災害現場を多数見てきましたが、1つの災害に対し、どこにどんなニーズがあり、どれだけの関係者が、どのようにアプローチしているのか、これまで全く考えもしなかった観点から考えることができ、非常に新鮮なことばかりでした。今後の消防行政に少しでも生かしていけるよう尽力する所存です。

また、ここでしか会うことのできない一生の仲間ができたことにも、感謝申し上げます。

氏 名：岩垣津 信太郎

派遣元：岐阜県

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：災害緊急事態対処担当

私は、災害緊急事態対処担当という部署で、被害状況や被災者支援状況の情報収集という点で、「官邸や大臣をお支えする」という、業務担当の一員に加えていただきました。

取りまとめのほか、内閣府職員（OJT 研修生含む）が現地（県庁）で収集した『現場情報』を幹部へ上げ、災害対応に関する各種会議の設営準備に関わり、中央省庁の動きについて、身をもって学びました。

当然、初動さえ過ぎれば終わりではなく、検証にも関わり、先手先手の対応を感じました。

OJT も、出向者も、プロパーも、非常にフランクで、ありがたい環境です。

自治体職員の皆さまには、得難い経験を得るために、また、幹部の皆さまには、組織の強化を図るために、内閣府防災への派遣をお勧めします。

氏 名：小林 杏奈

派遣元：山梨県

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：災害緊急事態対処担当

通常業務では、主に災害時の物資調達や輸送において、国～避難所間での情報共有が円滑に進むようシステムの開発を行い、物資輸送や在庫管理の知識、システムの基礎的な知識を学びました。また、全国自治体ブロック別システム操作説明会を開催することにより、自治体それぞれの抱える課題や想いを知ることができました。

発災時には、防災大臣等の被災地視察に係る調整（視察先選定、交通手段確保等）を行いました。時には事前に現地入りし、自治体、警察、バス会社、国地方局等の担当者と直接現地で話し合いながら入念な準備を重ねるなど、とても勉強になりました。視察随行では、被災現場の空気や緊張感をその場で感じられ、被災経験のない私にとって貴重な経験となりました。

これらの経験や、研修を通じて築いた人脈を今後も大切にし、山梨県の防災力向上に寄与できるよう努めていきます。

氏 名：山田 修平

派遣元：広島県 広島市

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：被災者行政担当

私は、被災者行政担当で主には避難所を担当させていただきました。災害対応、国会対応など、何もかもが初めてのことで戸惑いましたが、その中でスピード感の違いや仕事の進め方、資料作成等多くのことを学ぶことができ大変勉強になりました。

令和元年度は台風第 15 号・19 号など大規模な災害が発生し、避難所の生活環境に関する自治体との調整や、現地利エゾンとしての千葉県への派遣など国の災害対応について学ぶことができました。

また、業務を通じて、様々な省庁や自治体、関係機関とも関わることができたことは、今後の大きな財産だと思います。

今後は、ここで得た防災の知識と関わった人との繋がりを大切に、広島市の防災行政に活かしていきたいと思えます。

氏 名：高見 健治

派遣元：兵庫県 神戸市

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：被災者行政担当

私は主に『災害救助法』を担当しました。過去業務では防災経験がなく、右も左も分からない中、がむしゃらに走り抜いた 1 年でした。

令和元年度は災害が多く、発災直後の一刻の猶予も許されない状況下での被災自治体とのやり取りは、非常に精神的・体力的にハードでした。

その一方で、災害からの復旧・復興に向かって各自治体職員がひたむきに尽力されているのを目の当たりにし、熱意を感じるとともに、『自治体防災担当職員とはかくあるべし』という理想像のイメージが湧きました。

自治体へ戻ってからも、災害時の意思決定のスピード感、如何なる状況にも対処するための柔軟な心構えを忘れずに、来るべき災害に備え、準備をしていきたいと思えます。

氏 名：酒井 亮司

派遣元：大分県

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：調査・企画担当

私は、調査・企画担当において、火山地域における警戒避難体制の整備に関する業務に携わりました。主な業務として、火山防災協議会等連絡・連携会議の開催、避難計画の策定に係る支援などを行いました。業務の中で、関係機関との連絡・調整を行う難しさがありましたが、打合せや検討会を重ねることにより、火山防災を担う多くの関係機関との人脈を築くことができました。

また、有明の丘で行われる研修に参加し、国や地方公共団体の職員の講話などを通じて防災対応を体系的に学ぶことができました。

内閣府での業務や研修で得た経験は、自分にとって大変貴重な財産となりました。この経験をもとに、本県の防災対策の取組に役立てていきたいと考えています。

氏 名：佐藤 啓

派遣元：群馬県

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：調査・企画担当

今年の1年間は、台風第15号・19号等による災害を始め、山形県沖の地震、8月の前線に伴う九州北部地域の大雨等、様々な自然災害に見舞われました。私は台風第19号では宮城県に、8月の前線に伴う九州地域の大雨では佐賀県に派遣されました。宮城県では、発災直後だったのでプッシュ型支援等の初動対応を、佐賀県では、発災から少し経った後だったので避難所から仮設住宅等への被災者の移動など、国から自治体へのフェーズに合わせたサポート業務を体験させていただきました。

通常業務では、台風第19号による避難のWGや、警戒レベルの周知・広報、防災教育、福祉と防災の連携のモデル地区事業など、盛りだくさんの業務を担当させていただきました。

群馬県に帰っても今年度の様々な経験を活かしたいです。1年間大変お世話になりました。

氏 名：高村 康平

派遣元：福井県

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：調査・企画担当

私は、調査・企画担当において、主に地震対策の検討に携わりました。主な業務は、国の地震防災対策検討のもととなる想定地震動・津波等の設定のための検討会の会議口ジや有識者・関係省庁等との調整でした。

内閣府の検討会ということで、参画している委員は日本の地震学会を代表するような方たちばかりで、そのような検討会で私の作成した資料を用いて議論が行われ、恐れ多くも非常に有意義な経験をさせていただいたと思います。

本研修を通じて、国の地震対策全体の枠組みを初め、地震という現象に対しても非常に精通できたと思っております。地震は発生すると甚大な被害をもたらす自然現象なので、本研修で得られた知識を福井県の防災対策に活かせたらと思います。1年間大変お世話になりました。

氏 名：出口 宗太

派遣元：熊本県 熊本市

派遣期間： R元.8.1～R2.3.31

所 属：地方・訓練担当

地方・訓練担当にて「総合防災訓練」「緊急災害現地対策本部運営訓練」などの業務を担当しました。

調整業務がメインですが、総合防災訓練は首相をはじめ全ての閣僚が参加するため、調整が非常に大変だった反面、その分やりがいも感じました。

また、令和元年度は一連の台風災害で東日本を中心に甚大な被害が発生したため、内閣府も現地リエゾンを派遣しました。私は千葉県と茨城県に派遣されましたが、被災自治体の災害対応を生で感じることができたとともに、政府側の目線についても理解することができました。

そして、有明の丘研修では、普段関わらないような有識者の講義を聞くことができ、受講者同士で顔の見える関係づくりができました。

氏 名：石川 皓章

派遣元：埼玉県 本庄市

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：地方・訓練担当

私は地方・訓練担当で、主に国・地方の職員を対象とした「防災スペシャリスト養成」への取り組みとして研修を実施してきました。そこで首長、有識者、政府の防災部門の人たちと数多く関わり、国の事業のスケールの大きさを感じることができました。

また、令和元年台風第 15 号・19 号では被災地へ派遣され、災害対応のイメージを掴めたことは非常に良かったです。

OJT 研修を通じて、全国各地の方と交流を深めることができ、何にも代えがたい経験となりました。防災未経験で不安でしたが、周りの協力もあり、修了することができました。あらためて、“人”が大切ということに気づかされました。今後は、この経験と人脈をもっと多くの方にも広めつつ、市の災害対応能力向上を目指し、活躍していきたいと思います。

氏 名：後藤 裕

派遣元：三重県 桑名市

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：地方・訓練担当

私は地方・訓練担当にて、主に政府や各省庁向け防災訓練の企画・運営を担当しました。また、令和元年台風第 15 号・19 号の関係で災害現地に 3 度派遣されました。この業務、経験を通じて地方自治体だけでの災害対応には限界があるが、国を始めとする様々な機関から強力な支援があるということを知りました。そして、その強力な支援を最大限活かすためには、平時から地方自治体側も訓練や受援計画策定などを通じて支援の受け入れ体制を整えておくことが不可欠であると感じました。

最後に、内閣府ではたくさんの方と出会い、「顔の見える関係」を築くことができました。出向の一番の成果でもあったこの関係を今後も大切に、親元での業務に活かしていきたいと思います。

氏 名：穴井 英之

派遣元：愛知県 岡崎市

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：普及啓発・連携担当

岡崎市として、内閣府の OJT 研修生を派遣することは初めてだったこともあり、派遣された当初は不安がございましたが、厳しくも丁寧に御指導いただく諸先輩方のお陰で、早々に職場に馴染むことができました。

また、他省庁や企業からの出向者も多く、仕事のやり方や進捗管理について、幅広い分野の方々と共に働くことにより、様々な視点を持てるようになったことと、そのような方々と知り合い、苦楽を共にできたことは、派遣元では味わえない経験であり、一生の宝です。

残念ながら、派遣期間中に「令和元年房総半島台風」、「令和元年東日本台風」など、多くの災害が発生してしまい、被災各地に派遣されることとなりました。被災した方々の悲痛な思いや、自治体職員の苦勞など、現場でしか体験できないことを派遣元に持ち帰り、災害による被害軽減の施策に繋がられるよう尽力いたします。

氏 名：草刈 健太郎

派遣元：神奈川県 大和市

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：普及啓発・連携担当

私は、普及啓発・連携担当で、地区防災計画策定支援や津波防災の日啓発、広報誌ぼうさいの編集、BCP 策定率調査など、幅広い業務に携わりました。

令和元年房総半島台風、東日本台風等の災害では、合計 35 日間に亘り現地政府チームの一員として活動し、被災地の厳しさを最前線で感じる貴重な経験ができました。

また、エクアドル・コロンビア両国で開催した官民防災セミナーでは、海外出張を経験し、日本の防災技術の強みや、官民の国際交流、現地政府・大使館の業務などといった国際的な視野を学ぶことができました。

研修を通じて得た国や自治体・企業・団体の方々との人脈は今回の研修の大きな財産とっており、今後も大切にしていきたいと思います。

氏 名：尾崎 康征

派遣元：(株) NTT ドコモ

派遣期間： H30.4.1～R2.3.31

所 属：防災計画担当

防災計画担当として、首都直下地震対策や政府業務継続計画に関する評価等に携わりました。

各省庁や自治体等の多くの関係機関との調整や連携が必要であり、慣れない業務に最初は戸惑いの連続でしたが、行政や国会等のしくみを一から学ぶことができ大変貴重な経験となりました。

また、災害対応のための現地派遣では、被災者や被災自治体、ボランティア等の多くの方々の声を直接聞くことができました。国の災害対応に求められるスピードやパワーに驚きつつも、少しでも被災地の力になれるよう、全力で支援に取り組みました。

今後は内閣府で学んだ経験を活かし、指定公共機関として通信の確保や信頼性向上に取り組みたいと思います。

氏 名：野々垣 俊則

派遣元：KDDI (株)

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：防災計画担当

防災計画担当では、主に「外国人に対する災害情報の発信に関する取組」や「災害情報ハブ」の担当として、関係省庁や関係機関との調整等を通じて、知識や考え方など様々なことを学ばせていただきました。また、災害発生時には、被災地でISUT（災害時情報集約支援チーム）担当として災害対応に携わることができ、とても貴重な経験をすることができました。

さらに、有明の丘研修をはじめとする各種研修や防災機関の施設見学等を通じ、防災に関する知識を学べたことは、かけがえのない財産となりました。

これらを通じて得た、知識、経験、人との繋がりを大切にして、今後の業務に活かしていきたいと思います。

氏 名：羽廣 亮介

派遣元：イオン (株)

派遣期間： H31.4.1～R2.3.31

所 属：防災計画担当

私は、主に協定の締結等、国と民間企業の連携に係る業務に取り組んで参りました。

災害時には、物資支援を中心に担当し、被災地派遣も経験させていただきました。

防災業務に携わったことが無く、小売業からの派遣者もない環境で、当初は不安もありましたが、後にも先にも味わえない貴重な業務経験が出来ました。

「人」に恵まれたことも幸運でした。計画室メンバーは勿論、他室の方々にもたくさん支えていただき、感謝の一言です。研修員同士の絆や、研修や打ち合わせ等で築いた人脈も大きな財産です。次、御縁がある時は恩返ししたいと考えています。

今後は、1年間の経験を付加した新たな顧客視点で行動し、一人でも多くのお客さまが、安心してお買い物を楽しめる場を築くことが目標です。